

結局、老後にかかるお金って？

ファイナンシャル・プランナー 福島えみ子

老後なんて、そんな先のことは考えられないし考えたってしかたがない。少し前はお金の相談の現場でそんな声をよく聞いていた気がします。ところが、最近になって毎日のように耳にするのが老後が心配、特に老後にかかるお金が特に心配という声。

意外かもしれませんが、こういった声のほとんどが20代・30代のまだ若い層なのです。連日のように新聞・テレビ・雑誌で現状の財政不安や経済状況の悪化を目にすると、自分達が年をとった時に年金はもらえるの？もらえるとしてもどれくらい？と不安をかきたてられるのも無理はないかもしれません。

自分の老後の暮らしてどんなふうだろう？

少しの間目をとじて思いを馳せてみてください。いかがですか？今の生活と同じように、お友達とお食事やお茶をしたり、映画をみたり、旅行に出かけたり。そんな楽しそうな光景が目には浮かびましたか？たくさんの孫に囲まれて、二世帯住宅で楽しく暮らしている姿が思い浮かんだ方もいるかもしれません。

実際にそんな暮らしを実現させている今のシニア世代。そんな世代の家計ってどんな家計になっているのだろうかという平均が下の数字です。

高齢無職世帯の収入と支出の平均(1か月)



総務省「家計調査報告(家計収支編)」(平成23年平均速報結果の概況)の数字をもとに筆者作成

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

この数字、どんなふうに感じられたでしょうか。この統計は高齢者の中でもいわゆる無職世帯、つまり年金を主として生活している層のものです。あくまでも平均ですが、今のご自分の家計とくらべていかがでしょうか？

なお、ここにおける「支出」にはいわゆる「非消費支出」も含まれています。「非消費支出」とは、介護保険料や健康保険料などの社会保険費、税金などの“消費”するため以外の支出をいいます。これらの「非消費支出」も私たちの世代ですと、決して軽く考えることはできません。出生率の低下や現在の日本の財政状態を考えると、税金や社会保険費の負担は今よりもっと厳しくなりそうということは想像に難くないからです。今のお年寄りでさえ、平均をとれば赤字家計ということから考えれば、私達が老後になったときは、もっと自分で備えていなければ安心感は得られないかもしれませんね。

しかし、一方で、老後は細々と暮らすから老後の生活費はそれほどいらわないわ、という声も聞こえてきそう。ただし、余裕のある老後を送りたい人、そうでもない人、どちらも日々の生活のお金プラスもしものときのお金も備えておきましょう。

もしもの時のお金は、病気やけがの時のみならず、持ち家なら細々とした修繕費、家電が壊れて買い替えたときのお金など、予期せずまとまった出費を余儀なくされるときのためのもの。それから冠婚葬祭の「葬」にあたるおつきあいのお金もシニア世代になると当然といえば当然ですが増えてきますし、これが意外とまとまると結構な出費になったりも。

こういったことを頭にいれたうえで、ざっくりと老後の必要生活費の算出をしてみましょう。

■ (A) リタイヤ後、年金をもらえるまでの期間

前提条件：60歳定年 年金受給開始65歳

$$\underline{\text{[毎月の必要生活費]} \times 12 \text{ (か月)} \times 5 \text{ (年)}}$$

■ (B) 年金受給後の老後の生活費

前提条件：女性の平均寿命を参考に、90歳までの生活費を算出と仮定

$$\underline{\text{[毎月の必要生活費-もらえる年金予定月額]} \times 12 \text{ (か月)} \times 25 \text{ (年)}}$$

■ (C) 臨時出費のための予備費

それぞれ自分であれば安心な額 (目安200万~300万)

☆ **老後までに貯めておくお金 → (A) + (B) + (C) の合計額**

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

ざっと計算してみると、どうでしょう？思っていた以上に大きな金額になったという人も多いのではないのでしょうか？

ここまで見てお気づきになったかと思いますが、このように老後に必要なお金は、もらえる年金額の違いや現在の貯金額だけでなく、その人の目指すライフスタイル、それぞれの考えかたによってもその金額は違ってきます。

たいせつなことは、予想外に大きな金額になって愕然としたという人も、そんな額ならもう老後のお金は貯められない！とあきらめてしまうのではなく、気がついた今、いち早くアクションを起こすことです。

宝くじのような一攫千金を別にすれば、お金って急には貯まらない。これはきっと多くの人が実感していること。そうだとすれば、手はひとつ。今からでも遅くはありません。今自分にできることを考えて少しずつコツコツと準備し始めること。ぜひ今日から始めてみてください！